

心理学研究における 偏見とスティグマとステレオ タイプの用語の棲み分け 米国心理学会のPsycNetによる分析

伊藤武彦 (和光大学)
take@wako.ac.jp
飯田 敏晴

(明治学院大学大学院/ 国立国際医療センター戸山病院)
日本応用心理学会第76回大会 2009年9月12日-13日

【目的】

スティグマ研究が心理学関連分野で、どのように研究されているかを、米国心理学会(APA)のデータベースであるPsycNETを検索し、偏見、差別、ステレオタイプなどの研究の特徴およびキーワードとの包摂関係を見るのが本研究の目的である。

【方法】

□米国心理学会のデータベースである PsycNETを2008年9月4日にキーワード検索した。論文の発表年代は1900年から2007年までとした。論文および学位論文や専門書も対象とした。

結果 全体論文数

PsycNETにより
"stigma"をキーワードに検索したところ、
5171件の結果が得られた。
"prejudice"をキーワードに検索したところ、
6000件の結果が得られた。
"stereotype"をキーワードに検索したところ、
3610件の結果が得られた。
→ Index Termを上位10語順に並べた(表1、表3、表5)
→ 雑誌上位10誌順に並べた(表2、表4、表6)

結果 偏見、ステレオタイプ、スティグマの 包摂関係

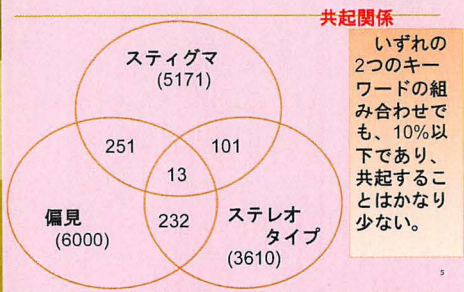


表1 「スティグマ」をキーワードとして、検索した場合の検索語(INDEX TERMS) 上位10語

検索語	件数
Stigma	2337
Mental Disorders	708
HIV	567
AIDS	432
Mental Illness (Attitude Toward)	379
Mental Health Services	287
Schizophrenia	269
Human Females	266
Mental Health	236
Major Depression	227

精神障害・精神保健が多い。
その次に、HIV・AIDSを扱ったものが出てきている。

表2 「スティグマ」をキーワードとして、検索した場合の雑誌の上位10雑誌

雑誌名	件数
Social Science & Medicine	100
Psychiatric Services	88
AIDS Care	75
British Journal of Psychiatry	61
Epilepsy & Behavior	54
Journal of Mental Health	45
Psychiatric Bulletin	42
Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology	34
AIDS Education and Prevention	33
Journal of Applied Social Psychology	32

全般的に精神医学・精神保健系の雑誌が多いが、
AIDSの雑誌も2つ入っている。

表3 「偏見」をキーワードとして、検索した場合の検索語(INDEX TERMS) 上位10語

検索語	件数
Prejudice	2824
Racial and Ethnic Attitudes	750
Stereotyped Attitudes	605
Blacks	591
Whites	439
Racism	426
Intergroup Dynamics	275
Racial and Ethnic Differences	249
Social Discrimination	246
Homosexuality (Attitude toward)	227

人種、民族問題が多い。
その次に、同性愛を扱ったものが出てきている。

表4 「偏見」をキーワードとして、検索した場合の雑誌の上位10雑誌

雑誌名	件数
Journal of Social Psychology	135
Patterns of Prejudice	108
Personality and Social Psychology Bulletin	98
Journal of Social Issues	86
Psychological Reports	84
Journal of Applied Social Psychology	67
European Journal of Social Psychology	51
Journal of Experimental Social Psychology	47
Social Forces	44
Psychological Inquiry	42

心理学、特に社会心理学分野が多い。

表5 「ステレオタイプ」をキーワードとして、検索した場合の検索語(INDEX TERMS) 上位10語

検索語	件数
Stereotyped Attitudes	1741
Human Sex Differences	443
Social Perception	311
Sex Role Attitudes	302
Human Females	251
Stereotyped Behavior	215
Sex Roles	210
Blacks	198
Racial and Ethnic Attitudes	159
Personality Traits	153

性とジェンダーが第一位にくる。
次に黒人と人種・民族問題がトピックである。

表6 「ステレオタイプ」をキーワードとして、検索した場合の雑誌の上位10雑誌

雑誌名	件数
Sex Roles	107
Personality and Social Psychology Bulletin	92
Journal of Social Psychology	89
Journal of Experimental Social Psychology	78
Zhurnal Vysshei Nervnoi Deyatel'nosti	77
European Journal of Social Psychology	58
Psychological Reports	56
Journal of Applied Social Psychology	52
Social Cognition	44
Perceptual and Motor Skills	37

第一位は性の問題の雑誌であるけれども、全般的に心理学特に社会心理学分野が多い。

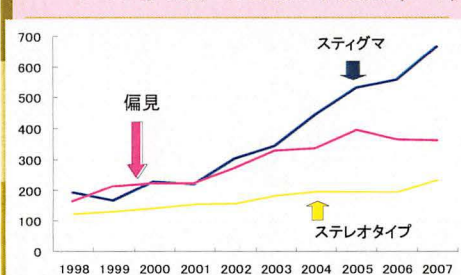
用語の研究領域での棲み分け

スティグマ研究：精神疾患と HIV/AIDSの医学研究が多い。
偏見研究：人種問題と同性愛の社会心理学研究が多い。
ステレオタイプ研究：性・ジェンダー、黒人・人種問題の社会心理学研究が多い。
→各研究領域で棲み分けがされていることがわかる。

図1 「スティグマ」を扱った論文の年次推移



図2 「スティグマ」「偏見」「ステレオタイプ」を扱った論文の年次推移(10年)



3用語の年次推移

□図1、図2を見ると近年スティグマの研究が爆発的に増えていることが分かる
□図2からは、偏見研究とステレオタイプ研究も漸増している琴が読み取れる。

引用・参考文献

飯田 敏晴 2008 心理学的概念として、"stigma"を扱うことは可能か？研究の現状と課題について 日本応用心理学会第75回大会ワークショップ3「スティグマ・偏見・差別とは？」(未公開)
飯田敏晴・伊藤武彦・井上孝代 (2008). 日本の大学生におけるHIV感染者・AIDS患者に対する偏見と知識：中国との比較 応用心理学研究 33(2), 138-139
伊藤武彦 2008 テキストマイニングによる偏見差別スティグマの研究：医中誌による1983年-2007年の25年間の研究より

心理学研究における偏見とスティグマとステレオタイプの用語の棲み分け 米国心理学会のPsychNetによる分析

伊藤 武彦
(和光大学)

飯田 敏晴
(明治学院大学大学院)

キーワード：偏見・スティグマ・ステレオタイプ

【目的】スティグマ研究が心理学関連分野で、どのように研究されているかを、米国心理学会 (APA) のデータベースであるPsychNETを検索し、偏見、差別、ステレオタイプなどの研究の特徴およびキーワードとの包摂関係を見ることが本研究の目的である。

【方法】米国心理学会のデータベースであるPsychNETを2008年9月4日にキーワード検索した。論文の発表年代は1900年から2007年までとした。論文および学位論文や専門書も対象とした。

【結果】「スティグマ」をキーワードとして検索した場合で5,171件の文献が出た。Index Termで見ると、Stigma (2,337)が検索語のトップとなったのは当然の結果である。実質的な内容として多いのは、Mental Disorders (708)、Mental Illness (Attitudes Toward) (379)、Mental Health Services (287)、Schizophrenia (269)、Human Females (266)、Mental Health (236)、Major Depression (227)などの精神障害関係である。その次に、HIV (567)・AIDS (432)の数が多い。論文などの分野では、精神障害関係とエイズ関係の研究がスティグマ研究の2大分野であるといえる。

「偏見」は6000件検索された。Index Termの多い順に、Prejudice (2,824)は当然として、Racial and Ethnic Attitudes (750)、Stereotyped Attitudes (605)、Blacks (591)、Whites (439)、Racism (426)、Intergroup Dynamics (275)、Racial and Ethnic Differences (249)、Social Discrimination (246)、Homosexuality (Attitudes Toward) (241)が上位10語であった。人種問題が多く、次に同性愛問題が出ていた。

「ステレオタイプ」は全部で3,610件あった。上位のIndex Termは、Stereotyped Attitudes (1,741)は当然としてHuman Sex Differences (443)、Social Perception (311)、Sex Role Attitudes (302)、Human Females (251)、Stereotyped Behavior (215)、Sex Roles (210)、Blacks (198)、Racial and Ethnic Attitudes (159)、Personality Traits (153)であった。性とジェンダーが第一位にきた。次に黒人と人種問題がトピックであった。

掲載雑誌名も勘案してまとめてみると、スティグマ研究は精神障害とエイズの医学研究が多く、偏見研究は人種問題と同性愛などの社会心理学研究が多く、ステレオタイプ研究は性・ジェンダーと黒人・人種問題の社会心理学研究が多い傾向にあった。またこれら3分野は図のようにいずれの単語も共起は10%以下と重なりが少なく、用語の棲み分けが行われていることが明らかとなった。

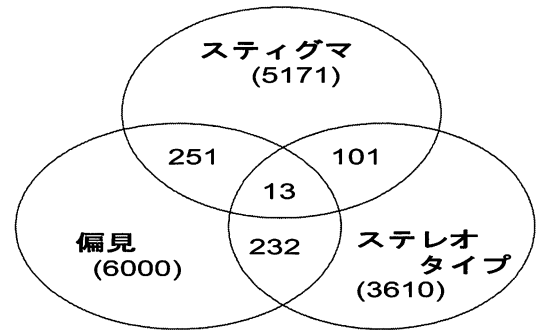


図1 AND検索した場合のヒット数

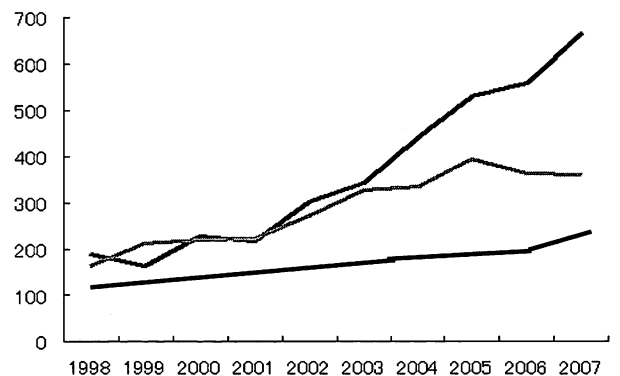


図2 上よりスティグマ・偏見・ステレオタイプの年ごとの推移

【考察】ここ10年間の件数の推移より、スティグマ研究の増加が顕著である。今後、心理学分野におけるスティグマ研究は興隆するであろう。

その際、スティグマ研究は、従来の社会心理学研究の延長にあると言うよりも、精神障害やエイズやてんかんなど、医療分野で学際的に協働して進めていく方向が示唆された。

日本においては、伊藤（未発表）の医中誌の検索結果の研究がある。スティグマ研究は2004年より盛んになっていること、偏見研究の方がかなり多いこと等が明らかにされている。

2002年の出来事として、①「精神分裂病」を「統合失調症」と改名、②『心の扉を開く』出版、③WPA世界大会（神戸）の開催という精神医学分野での出来事があり、偏見とスティグマを克服する機運とその研究活動が広がって来ているといえる。

エイズ研究でも感染予防にかかわる研究とともに、スティグマ・偏見・差別を低減するための研究活動が今後期待される。

(いとう たけひこ・いいだ としはる)